

女鬼(めき)峠(東紀州地域振興公社制作 PDF 東紀州マップ「熊野古道-伊勢路①」) ○H29.7.14FT23d

加藤孔久さん

起点:三重県多気郡多気町「相鹿瀬(わかせ)集会所」WC&駐車 距離:登り口より片道 1.8Km(45分) 下線:写真

7月8、9日の土日に三重県にある熊野古道の伊勢路の1番目の女鬼(めき)峠に行った。東紀州地域振興公社の [PDF 案内図](#) をネットで見つけ印刷。伊勢神宮から熊野三山に向けて玉城町の田丸で巡礼装束に身を改めた旅人が向かったという。同じルートではないが、[1番の詳細図](#)にある多気町の登り口から逆コースで女鬼峠とその近く



にある轍跡を見て戻ることにした。

伊勢自動車道を勢和多気で降りると途中に [高校生レストラン](#) があり、昼食。相鹿瀬(オウガセ)集会所に車を停めさせてもらって [登り口の表示](#) を見て向かう。

コンクリートの道が次第に狭くになり、[草地](#) に轍跡がある大神宮寺相鹿瀬寺跡と熊野古道(田丸方面)の表示のある道に分岐し山道となる。[名号碑と如意輪観音の祠](#) を過ぎるとほどなく、展望台と切り通しとの分岐点が見えてきた。

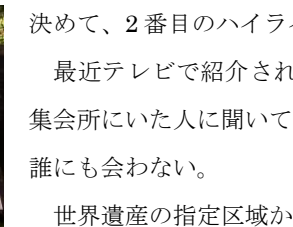


[切り通し](#)とは女鬼峠のハイライトで山頂部の石墨千枚岩を掘割って通した峠道。ここを通り過ぎた所にあった [茶屋跡](#) や、[その横](#) を通って山頂を回り展望台に行く [地図](#) の表示があった。帰路は山頂回りと



決めて、2番目のハイライトである [轍跡](#) を探して下り坂を進む。

最近テレビで紹介されたらしく前日当日と団体客がバスで来たと集会所にいた人に聞いていたが、田丸方面に通り返して行ったらしく、誰にも会わない。



世界遺産の指定区域から外れているのか、かつては多勢の人が往き来したであろう熊野古道を一人占め出来るとは誠に幸運と思っていたらシニアに近づこうとしてる感じの男性が一人、登って来た。

一言声をかけたが、後で車はどこに置いて来たかとか教えて貰うべきだった。轍跡らしき所がなかなか見つからずにいると女鬼峠の表示があった。峠を下った所にあるのは妙な感じがした。轍跡は本当にあるのかなと更に下って行った所で発見。峠と同じ石墨千枚岩なのだろう。道を覆う岩の始りの部分が轍の間隔で削られてその後はそれ程深くはないが、カーブしながらしばらく続いているのが目には感じられた。



写真を見ただけの人が轍の跡を感じられるか疑問ではある。PDF の詳細図に載っていた写真の説明には、くっきりと残っていますとあるが、私にはくっきりとは分からないような気がした。

それにしてもこのような坂道を荷車で登っていたということ。登るしかなかったのだろうということ。司馬遼太郎がシルクロードで拾ったという商人達が落したであろう古銭を、ここでは拾うことは出来なかったが、遠い過去に思いを馳せる。



切り通しの手前の茶屋跡から山頂を回り展望台に行くと、この道がかつて通って句を詠んだという [鈴木牧之\(ぼくし\)なる人の句](#) が紹介されていた。寛政6年(1796)に通ったという。

鈴木姓の人という、つい最近の人のように感じられるがネットで調べると明和7年(1770)越後国魚沼郡の塩沢の豪商に生まれ家業だけでなく俳諧や書画もたしなみ貧民の救済にも努めた人という。

総じて、女鬼峠の旅は大変良かった。何十年も前の旅を辿るついでとして探した所であったが、主たる目的地の猿田彦神社も安楽崎の宿もかつての面影はなく、ついでなる所が主役となった旅であった。